

監訳者序文

胸部外科は、心臓や肺が近くにあることで敬遠されがちなのではないでしょうか。実際に私が心臓外科を行う際には、手術件数を重ねていても気をつけなければいけないことは多く、手技一つひとつを確認しながら進めていくようにしています。心臓と肺の病態生理を理解しつつ、麻酔の影響も考慮して準備を整え、手術に臨みます。手術中は出血を可能な限り最小限に留めるように気を配り、出血が見られた場合には冷静に対処するようにしています。総合的な外科の本にはこれらのことが網羅されないことも多く、いろいろな本を手に取りながら学ぶ必要があると思います。この「Small Animal Thoracic Surgery」を最初に手にした時は、基本的なことから応用までバランスよくまとめられた本だなという印象を持ちました。図も多く挿入されているため、説明文を読まずとも大事なところがすぐに理解できます。「基礎からの小動物の胸部外科」として訳を進めると、心肺機能の基礎的なところから、開胸手術のアプローチ、一般胸部外科、心臓外科に至るまで、広い範囲で詳細に記述されていることが理解できました。本書には胸部外科を行うにあたって理解しなければいけないことが網羅されているので、胸部外科を始めるにあたって頭の中を整理するために非常に役立つと思います。

本書を訳するにあたって JASMINE の高橋絵美氏に多大なご尽力をいただきました。原文に忠実であり、かつ、分かりやすい日本語に訳していただいております。ぜひ本書を手にとって胸部外科に必要な知識を整理してみたいかがでしょうか。

2020年4月
上地正実